

---

**生きる。**

烏龍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
生きる。

【コード】  
N9362G

【作者名】  
鳥籠

【あらすじ】  
よくある「命を大切にしよう！」的な短編小説。

俺が生きる意味を知りたい。  
俺が生まれた理由を知りたい。  
俺を死なせたくないというお前を知りたい。  
俺に死ぬなと言ったお前を知りたい。

俺は……

お前は……

誰なんだ……？

あの日。

学校の屋上から、俺は飛び降りた。

初めは少々、怖いと思った。だが、地面を見ているうちに、呼ばれた気がした。

「降りて来て。こっちに来て」

懐かしいような声。

それは所詮、俺の妄想。

その時の俺にはそんな事も分からず、頭から落ちるように飛び降りた。

落ちてる自分が瞼の裏に映る。

……カッコわりい。

何かの気配に気づき、はっと目を開ける。そこに、一人の男が写った。

空中で方向転換も出来ず、男に追突した。

「……ってえ」

「それはこっちのセリフだ」

下を見ると、地面にぶつけたであろう頭を痛そうに押さえる俺が

居た。その上に無傷の俺が居る。

……ん？

「早く退けよ」

下の俺が悪態づく。

俺は地面に胡座をかいた。

「誰だよ、お前」

「俺はお前だ」

予想した答えが返ってくる。

「俺が二人も居るわけないだろう」

「ん〜。こう言えば分かるか？ 俺はお前の心の中のお前だ」

……ん？

「だから、俺はお前の心だ」

それとなく理解した。

「だが、心が実体化するなんてあり得んだろ」

「俺はなあ、特別なんだ」

……はあ？ バカだろ、こいつ。

「言つとくが、お前の考えも、心の中の呟きも全部分かる」

……ふ〜ん。

「だから、お前が俺のこと、バカだなって思ったらお前は自分をバカだと言ったことと同じになる」

「……訳の分からん説明はどうでもいい。お前がここに存在するわけを教える」

心の中の俺という奴は、地面に横になった。

「お前に言いたい事があるからだ」

「言いたい事……？」

コクリと頷き、立ち上がるや否や、俺を殴った。あまりの力の強さに驚く。

「俺はまだ生きてえのに、勝手に死のうとするんじゃないねえ！」

腹に拳がめり込む。

「お前は恥ずかしいことが嫌いだ。それは俺も同じだ。二人で同じ

体使って生きてんだからなあ。だからなあ！ 自らの手で死ぬんじやねえよ！」

雄叫びに近い声をあげているやつの拳が頬を直撃する。

最後にそいつは俺を突き飛ばし、小さい声で言った。

「この世で一番恥ずかしいこと。それは、自分を殺すことだ」

目が開いた。

白いベッドの中に俺が居る。

……さっきまで学校に居たはずなのに。

俺はあの日から、今までと同じように、何も無いこの世を、あいつと共に生きることにした。

だよな……俺。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9362g/>

---

生きる。

2010年10月22日13時27分発行